

に応じた設定を考案する必要がある。

適応疾患に応じたモードや AV delay の設定, チェック結果に応じた出力や感度の調整, 動作不良に対するブランキングや不応期の調整など, 様々な条件から最良と思われる設定を日々考察しているものと思われる。一方で, これらの設定は施設の考え方により差異があり, それぞれの施設で基準を定めペースメーカーフォローに携わっているものと思われる。

今回は, パネリストの各施設がどのような考えに基づいて設定内容を決定しているかをご講演頂き, それを題材にオーディエンスを交えて討論したい。

フォアヌーンセミナー

2月11日 (日)

第3会場 10:30 ~ 11:30

フォアヌーンセミナー 1

Graded CRT Response

ー植込み後のフォローで CRT レスポンス向上を目指すー

座長 中井 俊子 日本大学医学部内科学系循環器内科学分野

演者

1. 田中 秀和 神戸大学大学院循環器内科学分野
2. 奥村 貴裕 名古屋大学医学部附属病院重症心不全治療センター
3. 岡 崇史 桜橋渡辺病院不整脈科

共催：日本メドトロニック株式会社

2月12日 (月)

第3会場 10:30 ~ 11:30

フォアヌーンセミナー 2

Doctor-D ーそのフォローアップが患者を救う!?!ー

座長 三橋 武司 自治医科大学附属さいたま医療センター循環器内科

パネリスト

1. 西山 信大 虎の門病院循環器センター内科
2. 長谷川 祐紀 新潟大学大学院医歯学総合研究科
3. 畑 玲央 倉敷中央病院循環器内科

共催：日本メドトロニック株式会社